

ウェビナー&
オンラインイベントも
ミーティングも
オンライン授業も!

Zoom

1歩先のツボ77

Kimura Hirofumi 木村博史

◎ 今までの仕事のやり方で大丈夫?
実例に基づいた**機材選び**や
具体的なセッティング方法も大公開!

本気の
テクニックと
マニアックな
実例も満載!

ソシム

「作る」と「使う」の2つで変わる
仕事術 **稼ぐ** **動画**で
木村博史
video business communication
Zoom、YouTube時代の新しい働き方

500社以上を指南

起業家、YouTuber
じゃなくても稼げる。

企業や、出張・会議の多い
社員にも有効。

部屋から、
世界中をフィールドに。

スマホ、タブレットが触れればOK

時間・場所・
人気は
関係なし!



動画クリエイターやYouTuberが教えなかった

動画制作&YouTube

YouTubeチャンネル活用戦略を

完全公開!!



✓ 簡単にマネができるプロの動画制作テクニック!

✓ ビジネスユースからYouTuberまで必須の戦略!

日本代協 ZOOM初級

Zoomを 活用しよう

木村博史 (Hirofumi Kimura)

インプリメント株式会社

【作る】 動画

YouTube

X

【使う】 動画

Z O O M



【使う】動画編

Zoom

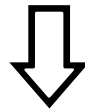
を活用しよう



***Zoom*を効果的に 使用できる仕組みづくり**

これがWeb動画活用成功の秘訣です。

**Zoomを効果的に
使用できる仕組みづくり**



**パターン化
定型化**

様々なプラットフォーム

Google Meet



Google Meetは法人向けに提供されているビデオ会議アプリ。5月上旬から9月30日までは個人でもメールアドレスを登録するだけで法人向けと同様にビデオ会議や画面共有、スケジュール管理などの機能を利用できる。9月30日以降はビデオ会議の利用時間が60分までとなる。

Microsoft Teams



マイクロソフトのクラウドサービスであるOffice 365やMicrosoft 365に組み込まれているほか無料版も提供されている。ビジネスチャットとビデオ会議の機能を統合したコミュニケーションプラットフォーム。「チャット」「チーム」「会議」「ファイル」の4つの機能から成る。

Cisco WebEx



Zoomが登場する以前は、世界で最も使われていたビデオ会議アプリ。エンド・トゥ・エンドの暗号化に対応しており、安全性の高さから企業でのIR情報や株主総会など機密性の高い情報を扱うミーティングでの用途には根強い人気がある。

Skype



2003年からはじまり、現在はマイクロソフトが提供。無料版のSkypeでも複数人のビデオ通話が可能で、参加者はもちろん、会議のホストもアカウント登録なしでも使えるのが他のサービスにはない特徴。Skype for Businessという法人向けサービスも展開。

Facebook Messenger ルーム



4月27日に発表された新サービス。FacebookのMessengerアプリに5月より順次実装されていく。時間制限なしで50人まで参加可能で、Facebookアカウントを持っていないユーザーも招待できる。Instagramとも連携可能。バーチャル背景やARエフェクトも搭載。

LINE



実はLINEも最大200人まで同時接続可能なビデオ通話を搭載しており、最大720pでの配信が可能。5月4日よりスマホ版アプリ限定機能として「みんなで見る」を追加。これはYouTube動画を画面共有してビデオ通話で一緒に楽しむというもの。



タウンホールミーティング
や進発式など社内イベント



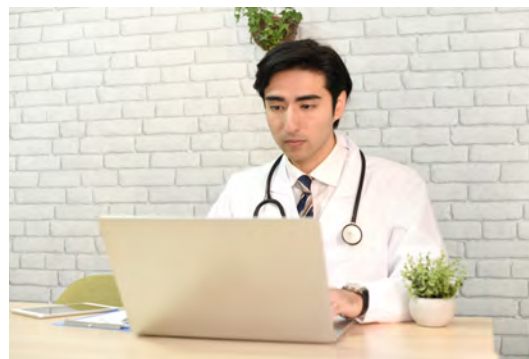
決算発表会や株主総会



展示会や採用説明会など
社外からの参加イベント



新製品発表などの記者会見



学会や顧客向けセミナー



社
葬

Zoomの配信にはどういふものがあるか



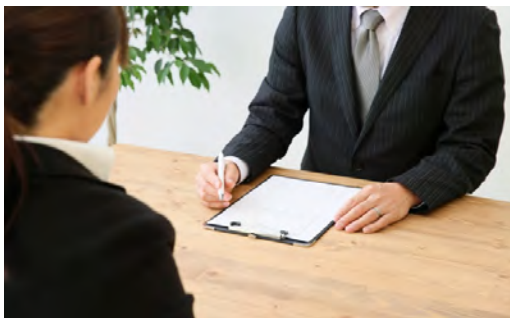
オンライン家庭教師



飛行機の整備確認



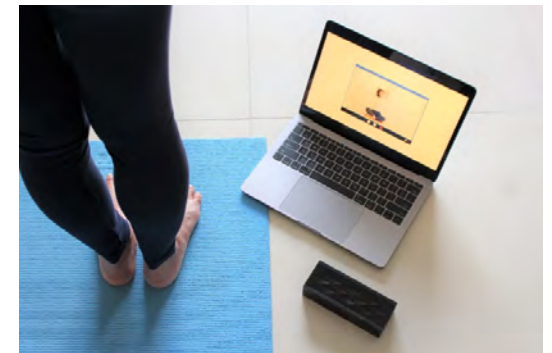
ライブサージェリー



オンライン採用面接



オンラインショールーム



オンラインスクール

*Zoom*をダウンロードする

概要

Zoomブログ
お客様の声
弊社のチーム
採用情報
インテグレーション
パートナー
投資企業
プレス
メディアキット
How to Video
ブランドガイドライン

ダウンロード

ミーティングクライアント
Zoom Roomsクライアント
Zoom Roomコントローラ
ブラウザ拡張機能
Outlook プラグイン
iPhone/iPad アプリ
Androidアプリ
Zoomバーチャル背景

営業担当

1.888.799.5926
セールスへの問い合わせ
プランと価格
デモリクエスト
ウェビナーとイベントリスト

サポート

Zoomをテストする
アカウントページ
サポートセンター
ライブトレーニング
フィードバック
お問い合わせ
アクセシビリティ
プライバシーとセキュリティ

言語

日本語 ▾



Copyright ©2020 Zoom Video Communications, Inc. All rights reserved. 「プライバシーおよび法務ポリシー」 | 広告について



ソリューション ▾

プランと価格

営業担当へのお問い合わせ

ミーティングに参加する

ミーティングを開催する ▾

サインイン

サインアップは無料です

ダウンロードセンター

IT管理者用をダウンロード ▾

ミーティング用Zoomクライアント

最初にZoomミーティングを開始または参加されるときに、ウェブブラウザのクライアントが自動的にダウンロードされます。ここから手動でダウンロードすることもできます。

ダウンロード

バージョン5.1.2 (28642.0705)



サインインをクリック



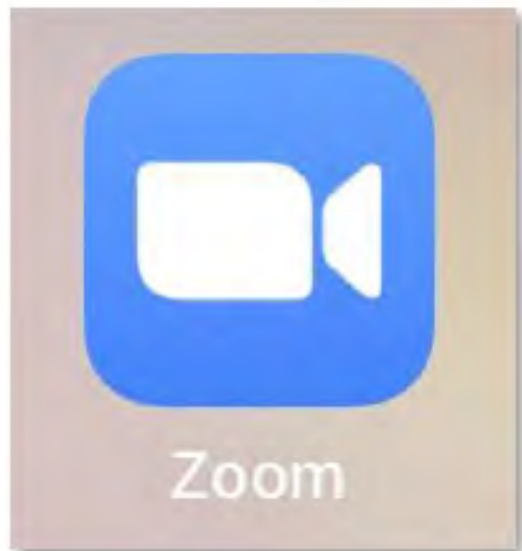
無料でサインアップをクリック

↓AppleStoreの画面



↓GooglePlayの画面





ここから
アカウントを作成



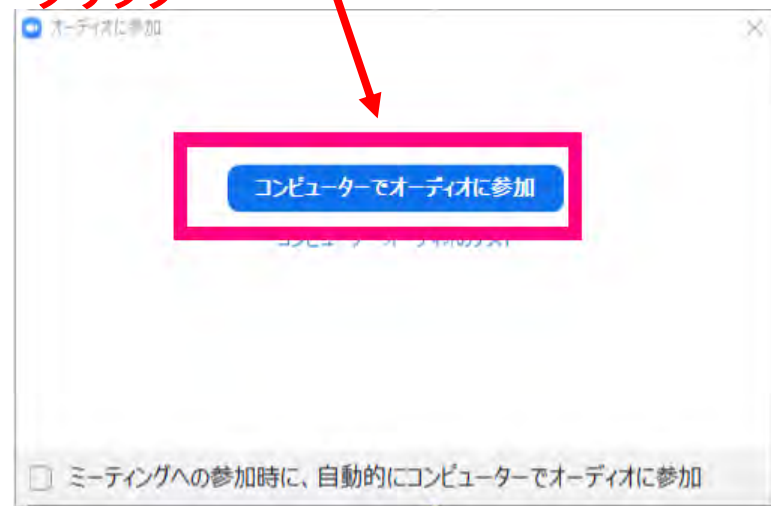
ミーティングをやってみる

「新規ミーティング」をクリック



①

「コンピュータでオーディオに参加」をクリック



②

「新規ミーティング」をクリック



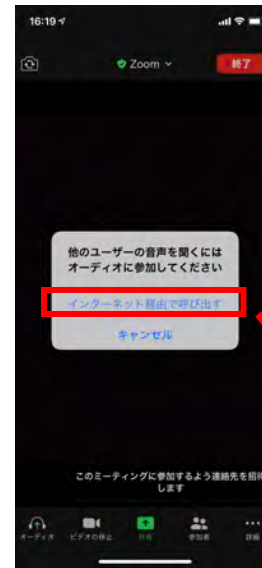
①

「ミーティングの参加」をクリック

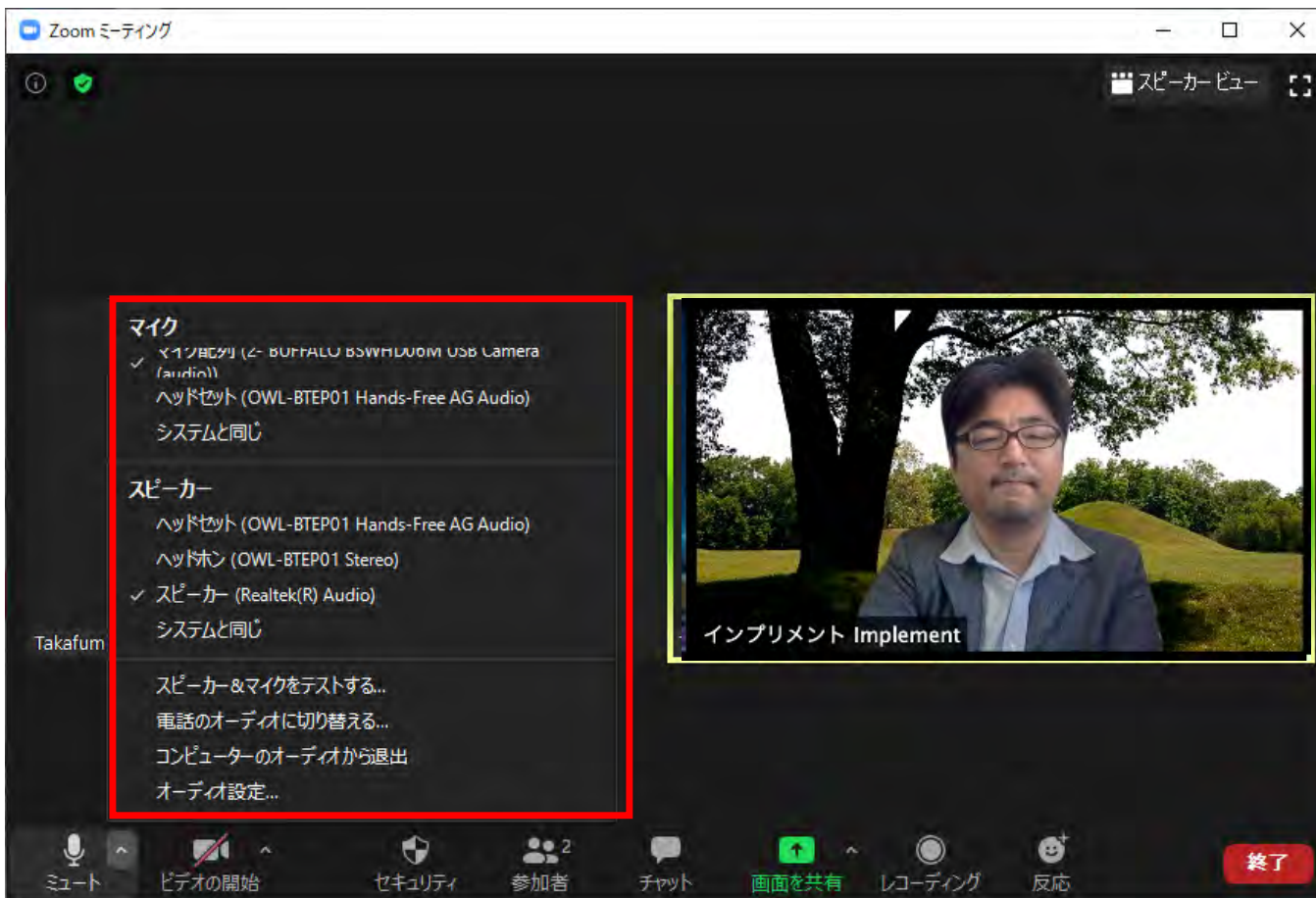


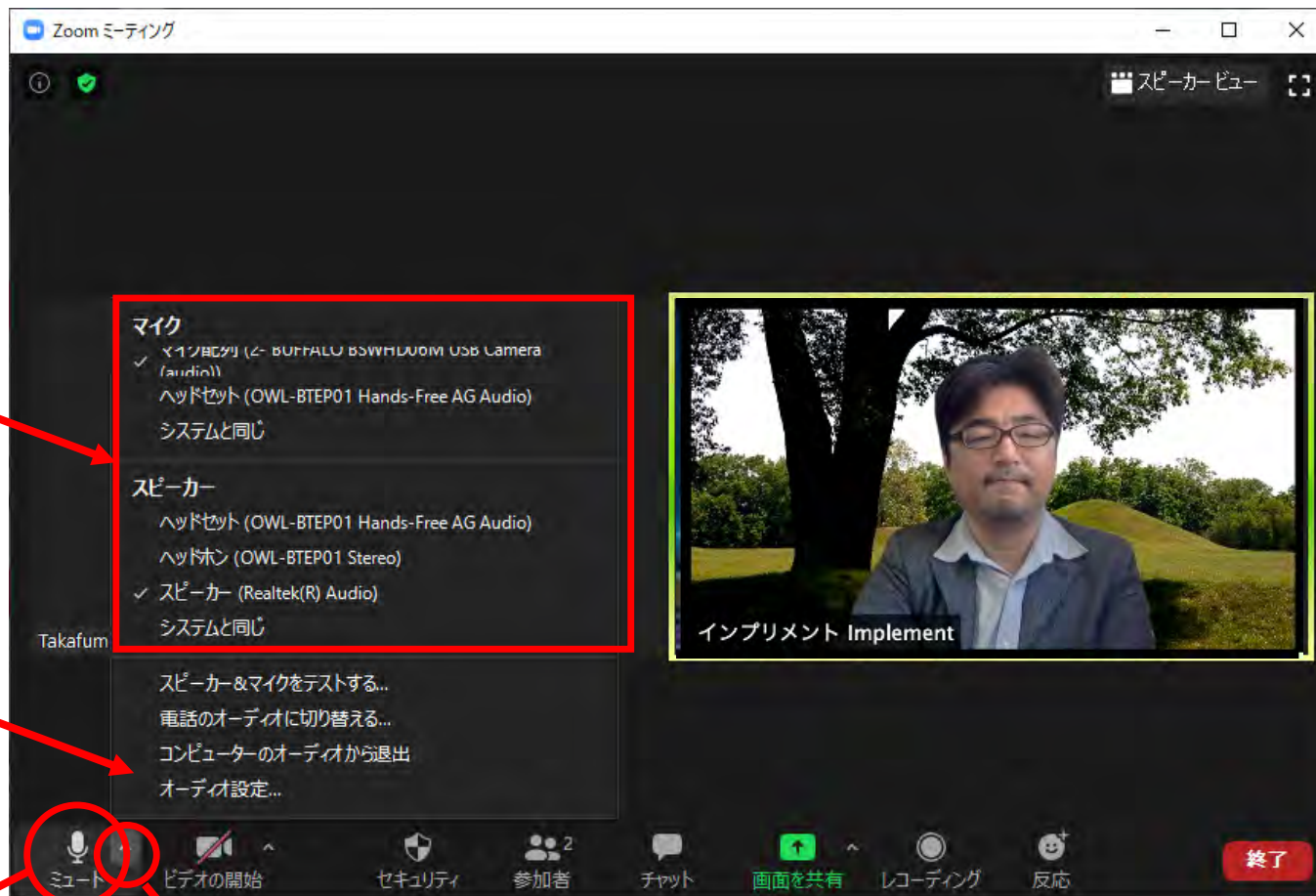
②

「インターネット経由で呼び出す」をクリック



③





使用するマイクやスピーカーを選択する。

オーディオ設定

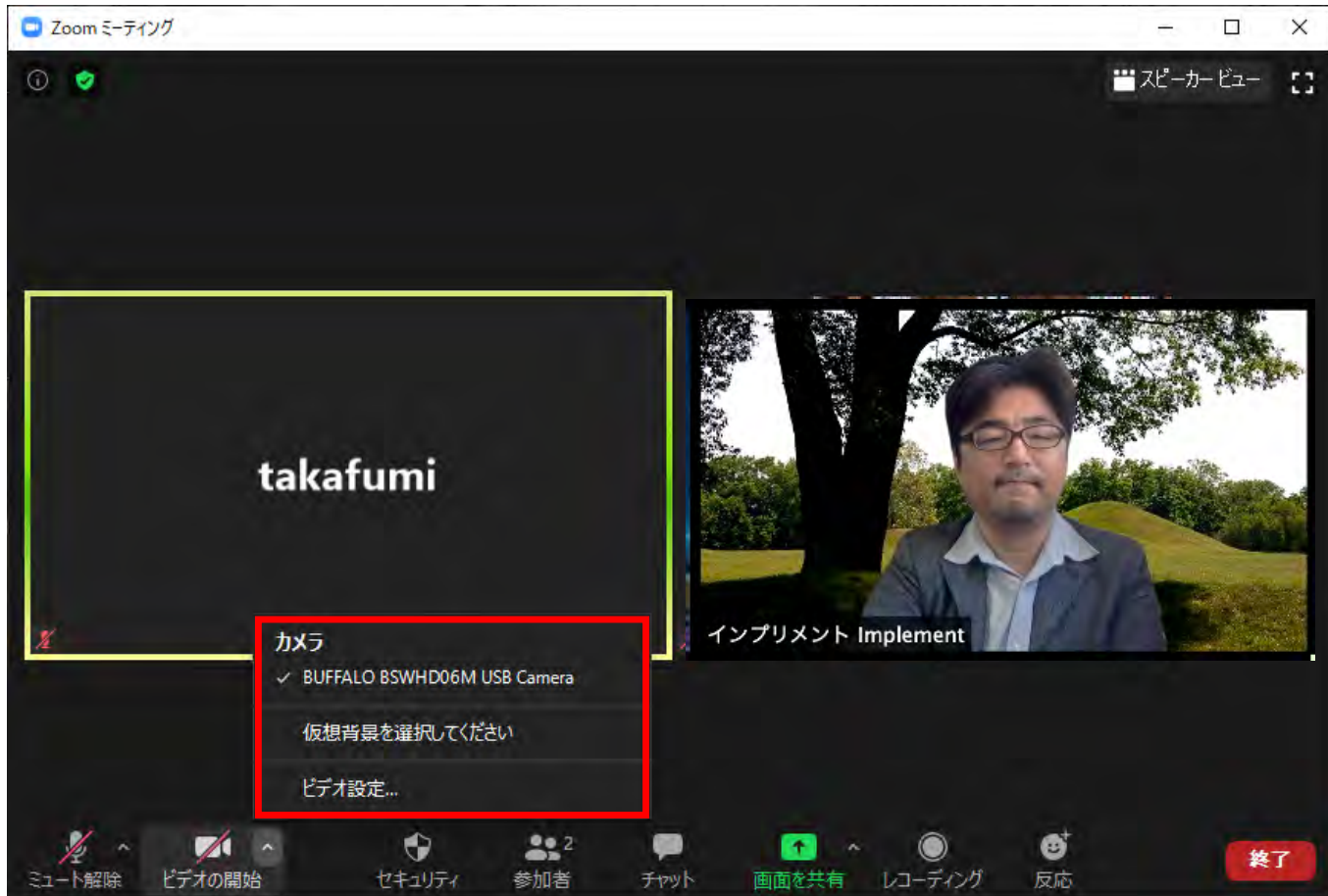
マイクのミュート

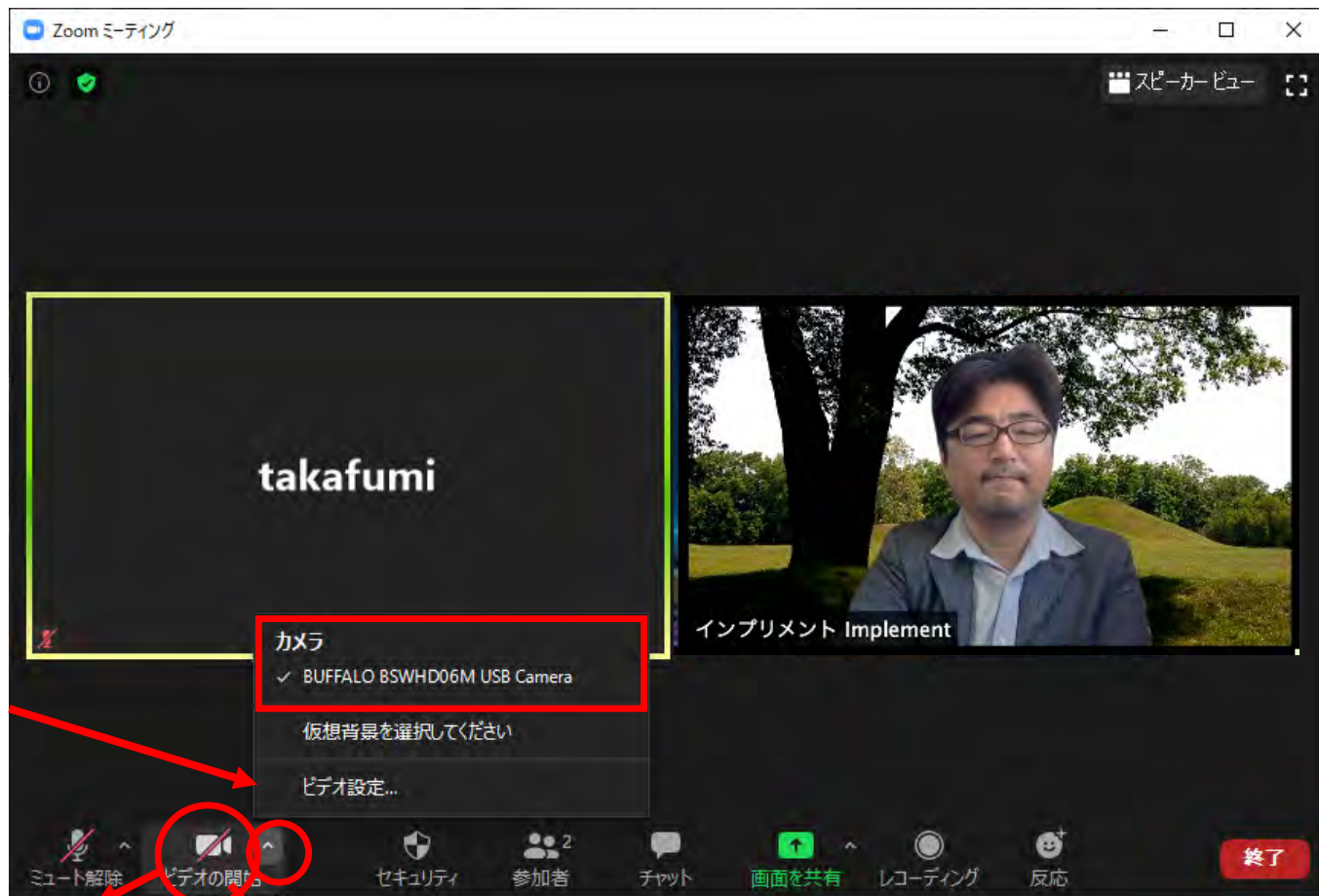
ここをクリックするとメニューが表示される。



マイクの入カレベル

マイク音量の自動調節のチェックボックス






ビデオ設定

ビデオのオンオフ

ここをクリックするとメニューが表示される。

設定

- 一般
- ビデオ**
- オーディオ
- 画面を共有
- チャット
- バーチャル背景
- レコーディングしています
- プロフィール
- 統計情報
- キーボードショートカット
- 接近性



インプリメント Implement

カメラ： BUFFALO BSWHD06M USB Camera

16:9 (ワイドスクリーン) オリジナルサイズ

マイビデオ

- HD を有効にする
- マイビデオをミラーリング
- 外見を補正する

会議：

- ビデオに参加者の名前を常に表示します
- ミーティングに参加する際、ビデオをオフにする
- ビデオミーティングに参加するときに常にビデオプレビューダイアログを表示します

詳細

ミーティング参加時の、ビデオのオンオフ設定。

ミーティングに参加する

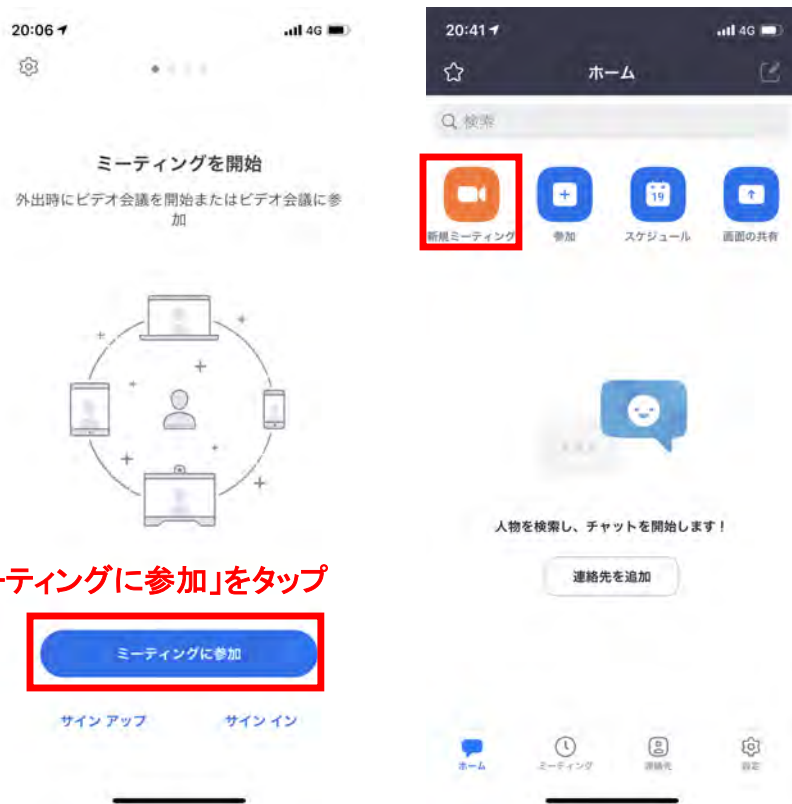


サインインせずに参加



サインインして参加

「新規ミーティング」をタップ



①

ミーティングIDを入力



③

パスワードを入力



④



無料プランと有料プランの違い

無料

3人以上のミーティングは
時間制限

クラウド録画できない

ウェビナー、Zoom Rooms
などのオプション不可

有料

ミーティングの
時間制限なし

クラウド録画できる

オプション追加でウェビナー、
Zoom Rooms ができる



有料プランの1番のメリットは、参加者が3人以上でも40分以上のミーティングができることです。40分以上使わないのであれば無料プランで十分です。2人で使うことが多いなら、無料プランでも有料プランと同様に40分以上のミーティングができます。

POINT

- ① 有料プランのメリットは、3人以上のミーティング時間が無制限になること。
- ② チャットや画面共有、バーチャル背景、リモート制御やブレイクアウトルームなどミーティングの基本的な機能は無料プランでも同じ。
- ③ ウェビナー機能やZoom Rooms機能などのオプション付帯は有料プラン。
- ④ 企業向けの有料契約プラン(BusinessやEnterprise)や教育機関向けプラン(Education)もある(第2章02参照)

無料プランと有料プランの比較

無料プランと有料プランの詳細をまとめたものが下記になります。1番の違いは3人以上の会議の長さが40分に制限されるか否かということです。また、有料プランでは会議のクラウド録画が可能になります。なお1村1と誤っていても、接続不良などで1度退出して再度会議に参加したりすると、3人以上の参加と認識されて40分までしか使えなくなるがあるので注意が必要です。

一方、会議の基本的なツールについては、無料版と有料版でまったく違いはありません。ウェビナー機能やZoom Roomsなどのオプションに関しては、有料プランを購入後、オプション購入します^{※1}。

	無料プラン (Basic)	有料プラン (Pro)
料金	無料	月額2,000円程度 (為替レートに影響される)
最大会議可能時間 (参加者2人)	無制限	無制限
最大会議可能時間 ^{※2} (参加者3人以上)	40分	無制限 ^{※3}
ローカル録画 (自分のPCに録画)	可能	可能
クラウド録画 (クラウドに録画)	不可能	可能 (容量1GB/ライセンス)
チャット機能	可能	可能
ホワイトボード機能	可能	可能
リモート制御	可能	可能
バーチャル背景	可能	可能
ブレイクアウトルーム	可能	可能
End to End暗号化	可能	可能
ウェビナー機能	不可能	可能 ^{※1}
Zoom Rooms	不可能	可能 ^{※1}

※1 ウェビナー (5,400円/月〜)、Zoom Rooms (6,600円/月〜) は別途オプションの購入が必要。

※2 無料プラン、有料プランとも24時間経過するとタイムアウトとなり、ミーティングは終了する。

※3 有料プランでも参加者がすべて退出し、参加者がホストのみになってから40分するとタイムアウトで終了する。



ウェビナーとミーティングの違いを理解しておこう



ウェブ (Web) 上でセミナー (Seminar) を開催することを2つの言葉を組みあわせてウェビナー (Webinar) といいます。日本では「オンラインでセミナーをやる」というほうが身近かもしれません。Zoomはウェビナーを運営しやすい環境を構築しているので、大規模なウェビナーでも効率的に開催することができます。ここではZoomでのミーティングとウェビナーの機能の違いについて理解しましょう。

POINT

- ① ウェビナーの参加者はビデオ利用ができず、音声もホストが一時的に許可したときだけ使用できる。これにより、ホストは参加者のミュートなど複雑な管理から解放される。また参加者間のプライバシーが守られるしくみとなっている。
- ② ウェビナーは、「Q & A機能」「実践セッション機能」「メールの送信機能」「ブランディング機能」といったウェビナー向けの機能が利用できる。
- ③ ウェビナーの運営方法は基本的にミーティングと同じだが、ブレイクアウトルーム、チャットでのファイル転送など、ウェビナーだとできない機能もあるので注意する。

ウェビナー ウェビナーは有料プランのオプション

ウェビナー機能は、プロ以上の有料プランへの有料オプションとして提供されています。利用にあたってはライセンスを購入したあとに、アカウントに振り分けないと使えません (第2章03参照)。

ウェビナー・ミーティング ウェビナーとミーティングの違い

下図にZoomのミーティングとウェビナーの違いを比較します。ウェビナーでは参加者のプライバシーが守られるように設計されているのに加え、「実践セッション (リハーサル) 機能」「Q & A機能」「参加者登録」など、ウェビナー運営に便利な機能が提供されています。

一方、ウェビナーでは対応しない機能もあります。特に、ブレイクアウトルームに対応していないことは注意が必要です。

機能	ウェビナー	ミーティング	解説場所
参加者の役割	・ホスト (共同ホスト) ・パネリスト ・参加者	・ホスト (共同ホスト) ・参加者	第5章02
オーディオ・ビデオ共有	ホストとパネリストが可能	全員が可能	
定員	ライセンスに応じて、 最大100～1,000人	標準では100人、オプションで最大1,000人	第5章 07,08,09,11
参加者リスト	ホストとパネリストのみ閲覧可	全員が閲覧可	
参加者登録	参加者自身で登録するか、 ホストがCSVデータで一括登録	主催者 (ホスト) が設定	
画面共有	ホストとパネリストのみ可	全員が可能 (ホストの許可要)	
メールのリマインダー	利用可能	不可	第5章10
Q & A機能	利用可能	不可	第5章03
投票機能	利用可能 (レポート機能有)	利用可能	第5章13
実践セッション	利用可能	不可	第5章04
録画	利用可能 (オンデマンド配信可)	利用可能	第5章06
待機室	不可	利用可能	
ブレイクアウトルーム	不可	利用可能	
チャットの ファイル転送	不可	利用可能	

※オーディオ共有は、ホストが「トークを許可」することで参加者も使用可能になる。



ホスト・パネリスト・出席者の役割を理解しておこう



ホスト

Zoom ミーティングには「ホスト」と「参加者」の区別しかありませんが、ウェビナーは「ホスト」「パネリスト」「出席者」という区分になります。この三者の違いをしっかりと理解しておきましょう。



パネリスト



出席者

POINT

- 出席者は閲覧者なので、発言のために音声を使用したり、ビデオを配信したりすることはできないが、「手を挙げる」「チャットで質問する」「アンケートに答える」ことができる。
- ホストの役割は、基本的にはミーティングと同じ。
- パネリストは音声を使用したり、ビデオを配信したりすることができる。ミーティングでの参加者に近いイメージ。
- 出席者に音声に加えてビデオを使わせたいときは、ホストが一時的に参加者をパネリストに昇格させることで可能となる。

ウェビナー それぞれの役割

Zoom ウェビナーは、実際のセミナーの役割とほぼ同じ役割をウェブ上で表現しています。



① ホスト

ウェビナーを開催する主催者（ホスト）になるので、運営にかかるさまざまな権限を有しています。ホストはひとつのウェビナーで1名しかいませんが、ホストは同様の権限を持つ「共同ホスト」を指名することができます。

② 共同ホスト

共同ホストは、ウェビナーがスタートしたあとホストから指名されます。共同ホストになると、参加者を管理するすべての権限が与えられますが、当然ながらホストの役割を変更するなど、ホストに対する権限や投票機能、ライブストリーム、ウェビナーを終了させることなどはできません。

③ パネリスト

セミナーでの登壇者がウェビナーでのパネリストになります。そのためビデオ配信や画面共有、O&Aやチャットの管理などもできます。パネリストは事前の設定で指名することもできますし、ウェビナーをスタートさせてから役割の変更で参加者から指名することもできます。ひとつのウェビナーにパネリスト（ホストを含む）は100名まで参加できます。

④ 視聴者

セミナーでの参加者が視聴者になります。視聴者は、ホストやパネリ



実践セッションを有効にして リハーサルをしてみよう



「実践セッション」はウェビナーにだけあるリハーサルモードです。これを使うと、出席者を参加させない状態(出席者には「ウェビナーがまだ開始していない」アナウンスが表示されています)で、使用するカメラやマイクなどの機器や設定などの確認、スポットライトの振り分けや画面共有など、本番さながらのチェックをすることができます。

POINT

- 1 実践セッションは、本番の前に参加者に知られずに、使用する機器の動作や設定の確認をしながらリハーサルができる。
- 2 実践セッション時、出席者には「まだウェビナーが開始していない」状態に見える。
- 3 ホストがウェビナーを開始ボタンを押すと、本番が開始され、出席者がウェビナーに参加できるようになる。

リハーサル 実践セッションとは？

ウェビナーはミーティングとは違ってイベントなので、スムーズな流れで進行させたいものです。そのためZoomでは、ウェビナーにのみ本番と同じ環境でリハーサルができる「実践セッション」を用意しています。リアルなセミナーに置き換えるとセミナー開始前に運営側だけで会場に集まり、出席者が入れないように会場に鍵をかけてリハーサルをしている感じです。

Zoomの機能を上手に使った演出をスムーズにするために、できるだけ実践セッションでのリハーサルをやるようにしましょう。

参加者 出席者として実践セッションに参加する

実践セッションには、運営側であるホスト、共同ホスト、パネリストが参加でき、出席者は参加できません。

投票機能やQ&Aによるトークの許可など、出席者を変えてのリハーサルをやりたい場合は、ホストやパネリストとして実践セッションに参加して、リハーサルをしながら必要に応じて役割変更で「出席者」に切り替えれば、出席者として実践セッションへの参加も可能になります。

本番 実践セッションから本番を開始する



▲実践セッション（リハーサル）

配信してみる

撮影機材をセットする(本格派かつ簡易)

logicool

製品 ソリューション サポート

検索



ビデオ コラボレーション

製品

パートナー様へ

各種リソース

受賞歴

ヘルプ

セールスへのお問い合わせ

MEETUP

120°の視野角を備え、オーディオが統合された一体型のカンファレンスカムは、小会議室やミーティングスペースに最適です。

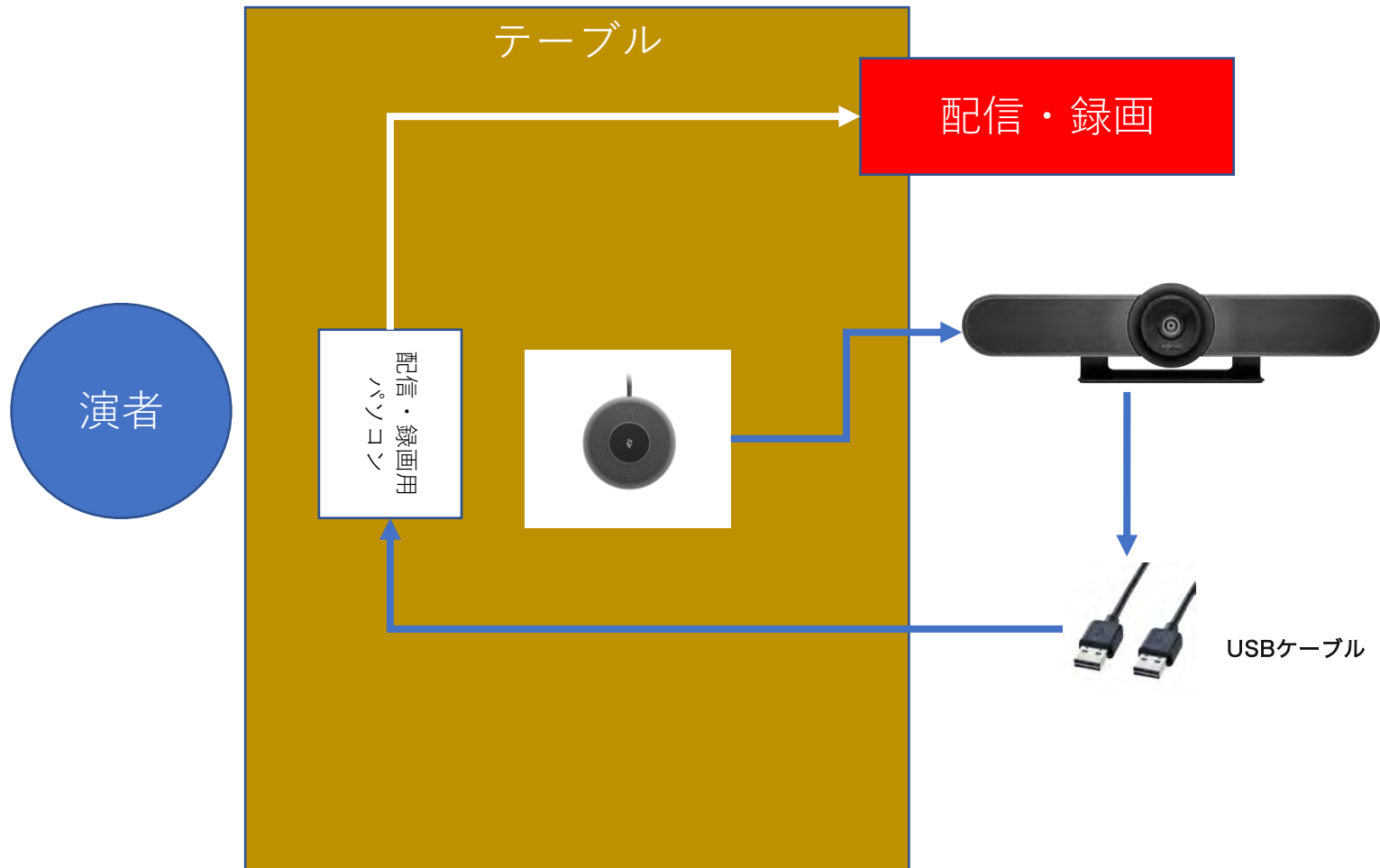
- カメラの近くにいる人を含めて全員が表示されます
- お使いのビデオ会議アプリケーションで動作
- コンパクトな設計により、ケーブル配線や乱雑さが軽減



仕様 ▼ データシート ↓

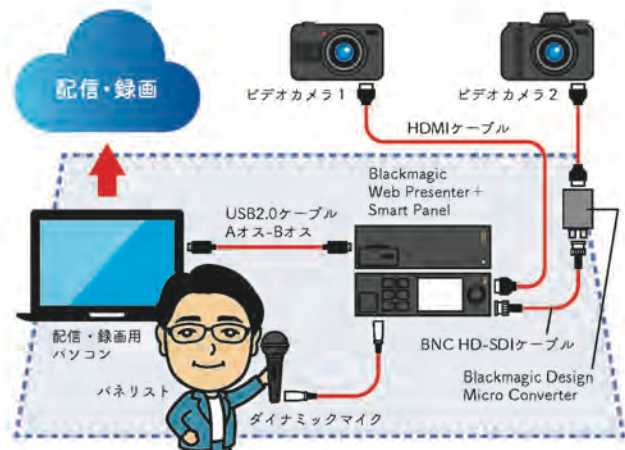
配信してみる

撮影機材をセットする(本格派かつ簡易)





機材・ガジェットの接続方法・ 選び方をマスターしよう



ここではカメラ、マイク、スピーカー、ミキサー、照明などの機材の選び方について説明します。いいものを求めれば高価になるので、目的に応じた機材を選ぶポイントをつかんでおきましょう。特にビデオデバイスに関する理解が不十分なことによるトラブルが多いので、十分気をつけましょう。

POINT

- 1 映像信号とPC信号の違い、ビデオデバイスの役割を理解する。
- 2 ハウリング/フィードバック対策には、エコーキャンセラー機能付きのマイクを選ぶ。
- 3 照明・グリーンバックは、最初は安価なもので十分。
- 4 機材は目的から選ぶようにする。

信号 撮影用カメラをパソコンにつなぐだけではダメ

撮影用のカメラを、ウェブカメラではなく、ビデオカメラや一眼レフカメラなどすると格段に画質がよくなります。ここでトラブルが多いのが、ビデオカメラや一眼レフカメラなどとパソコンの接続方法です。ただケーブルを接続するだけでは対応できないことが多いので、そのしつみをちゃんと覚えておきましょう。

まずビデオカメラからケーブルを伝って送信される映像の信号について見ていきます。

大切なことは、ビデオ映像信号とPC映像信号は違うということです。下記(左)はビデオカメラをPCに接続した例です。これはビデオカメラから出力されたビデオ映像信号が「ビデオキャプチャ」というデバイスを通してPCに入力されています。ビデオカメラや一眼レフカメラビデオの映像信号はPC映像信号ではないため、PC映像信号に変換する必要があります。この変換を行うのが「ビデオキャプチャ」になります。PCに入力する映像信号を取り込む(キャプチャする)機器なので、ビデオキャプチャといいます。つまり「ビデオ映像信号→PC映像信号」となります。ビデオキャプチャの多くが、逆の「PC映像信号→ビデオ映像信号」には対応していないので、出力が必要な場合には別の機器を使用することになります。

一方、下記(右)はウェブカメラをPCに接続した例です。ウェブカメラは直接PC映像信号として映像データを出力するため、PCのUSB端子に接続するだけでそのまま使うことができます。ビデオキャプチャがいらないので、シンプルな構成になります。



ビデオキャプチャはたくさんの種類が発売されています。YouTubeでゲーム実況配信に使用されるゲーミングキャプチャもあれば、プロが使用するビデオキャプチャもあります。ビデオキャプチャに特化した

機器としては、IO-DATAのGV-HUVCなどがあります。

PCの画面やPCで再生された動画を映像信号として使う場合、PC信号の映像データを映像信号に変換する作業が必要になります。この変換作業を「コンバート」といい、機器を「コンバーター」といいます。PC信号はデジタルで、カメラなどの映像信号はアナログです。デジタルからアナログに落とすので「ダウンコンバーター」と呼ばれます。ちなみに先ほどのビデオキャプチャもコンバーターです。アナログ信号からデジタル信号に変換するので「アップコンバーター」といわれています。

このPC信号をビデオ信号に変換する際に便利なのがスケーラー付きの「スキャンコンバーター」です。

スキャンコンバーターは名前のとおりデータをスキャンして、アップ・ダウンともに対応できます。そのためPCからの映像信号をビデオ映像信号に変換することができます。

ただPCと映像には、もうひとつ互換するために調整しなくてはならない「画面解像度」というものがあります。映像データは1920×1080Pixなど画像サイズにパターンがありますが、PCは機種によってまちまちなります。そのためコンバーターだけで接続すると、映像のサイズがあわずに文字が崩れたり画面が引き伸ばされたり正しく表示されません。それをデジタル処理でサイズ調整するのが「デジタルスケーラー」になります。このコンバーターとデジタルスケーラーを介して、はじめてPC画面が映像データになります。この両機能は組みあ

わせて使用することが大切なため、RolandのVC-1-SCなど両機能が搭載された機器が出ています。パソコン画面を映像としてうまく取り込めていないときの原因のほとんどがこの問題です。このあと紹介する最近のビデオミキサーは、最初からこのコンバーターとスケーラーが組み込まれ



▲I-O DATA GV-HUVC (実勢価格:1万5,000円)



▲Roland VC-1-SC (実勢価格:13万円)

CLASSIC PRO (クラシックプロ) / CHD201 HDMIビデオキャプチャー USB2.0接続

ポイント 10倍

目録を見る

バリエーションを選ぶ

USB2.0接続 在庫あり	10/50半定 USB3.0接続 スル ーアウト	約3週間 USB3.0接続 スル ーアウト 低遅延
------------------	--------------------------------	---------------------------------

980円(税抜)のHDMIキャプチャーカード登場! スティックタイプでケーブルレスのコンパクトな筐体で持ち運びも可能。USB/バスパワーのため、別途電源を用意する必要はありません。

CLASSIC PRO (クラシックプロ)
CHD201 HDMIビデオキャプチャー USB2.0接続
商品ID:280483
¥980(税抜)
(¥1,078 税込)
2,000円(税込)以上で送料無料
107ポイント 内訳
在庫あり

数量 1 [カートに入れる](#)
[お気に入りに入れる](#)

レビュー:
レビュー数: 6
この商品へのお問い合わせ
送料について

この商品に関連するセレクション
CLASSIC PRO
ケーブル類

機種 目的にあわせたマイクとスピーカーの選び方

マイクは音質、指向性、有線か無線かといったことが選択のポイントになってきます。

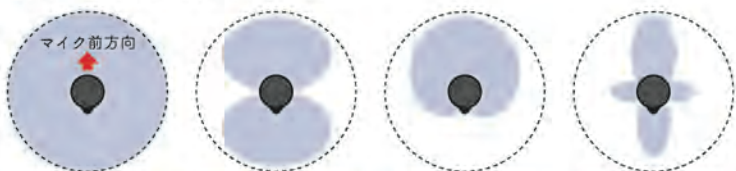
① 音質

通常安価で売られているものは「ダイナミックマイク」と呼ばれるものです。これでもミーティングなどでは問題ない品質です。それに対して高音質で集音することができる「コンデンサマイク」というものがあります。これは電気で音声信号を変換する機能がマイクについているため、とても音質がいいという特徴があります。音楽配信などではこちらを使うようにします。

② 指向性

指向性はマイクが集音する方向を示したものです。たとえば、前面180°であれば、前面の音だけで、後ろの音は拾いません。下記のようにマイクの指向性にもタイプがあります。用途に応じて使い分けるに越したことはありません。マイクによってはシチュエーションにあわせて、指向性を切り替えられるものもあります。

▼マイクの指向性（真上から見た場合）



無指向性

マイクを中心に360度周囲のすべての音を集音可能。会議室でのディスカッションや自然の中での環境映像などに選択。

双指向性

マイクを中心に前後の音を集音。インタビューの質問の声も収録したいときに選択。

単一指向性

マイクの前方の音だけを集音。インタビューの質問の声は入れたくない収録や動物の行動記録など、被写体の音だけに注目したいときに選択。

超指向性

あるいくつかの方向のかぎられた範囲の音だけを集音。人混みの中で特定の人物にだけマイクを向けたり、自然の中で特定の音だけをしっかりと録りたいといったような場合に選択。

③ 有線・無線

有線か無線かもシチュエーションにあわせて考えましょう。有線はUSBやミニピンで接続するので、簡単に接続できます。無線は一般の人が使用する機材（民生用といいます）では、Bluetoothを使った無線接続機器が多くなります。テレビ収録などでも使われるプロ用機材では、A帯、B帯といった周波数の異なるワイヤレスマイクが使用されます。最近ではネット通販などで無線免許が不要なB帯のワイヤレスマイクも安価で販売されていたりしますが、B帯は街中だと店頭の呼び込みなどで使用しているスピーカーやトラックの無線などと同じ周波数帯なので、混線したりして、使用するのに少々知識が必要になってきます。

セミナー講師 ワイヤレスのピンマイクがお勧め

セミナー講師なら、登壇して動きながらもきれいに集音してくれるワイヤレスピンマイクがお勧めです。ピンマイクは指向性が強いので、会場のほかの音を拾うこともなく声だけを聞きやすく集音してくれます。

ワイヤレスマイクもたくさん種類がありますが、RODEのWireless



▲RODE Wireless Go
(実勢価格：2万5,000円)

Goという製品は一般の人が使用することに重点を置いた簡単操作のワイヤレスマイクで、コンパクトかつ、受信機の出力端子が一般的に使用されているミニピンだったり、送受信機を簡単にペアリングできたりする仕様になっています。このあと説明するATEM Miniなど、さまざまな機器との組みあわせも簡単にできます。

セミナーや会議の場合、ハウリングやフィードバックを防ぐ「エコーキャンセリング」機能の有無も大切なポイントです。ハウリングやフィードバックを防ぐ設定は大変難しいので、この機能がついていると安心です。

セミナーや会議でお勧めなのが、Jabraの510という製品です。全範囲の音を集音してくれるので、会議のときは参加者の真ん中に



▲Jabra Speak 510
(実勢価格：2万円)



貸会議室やホールから



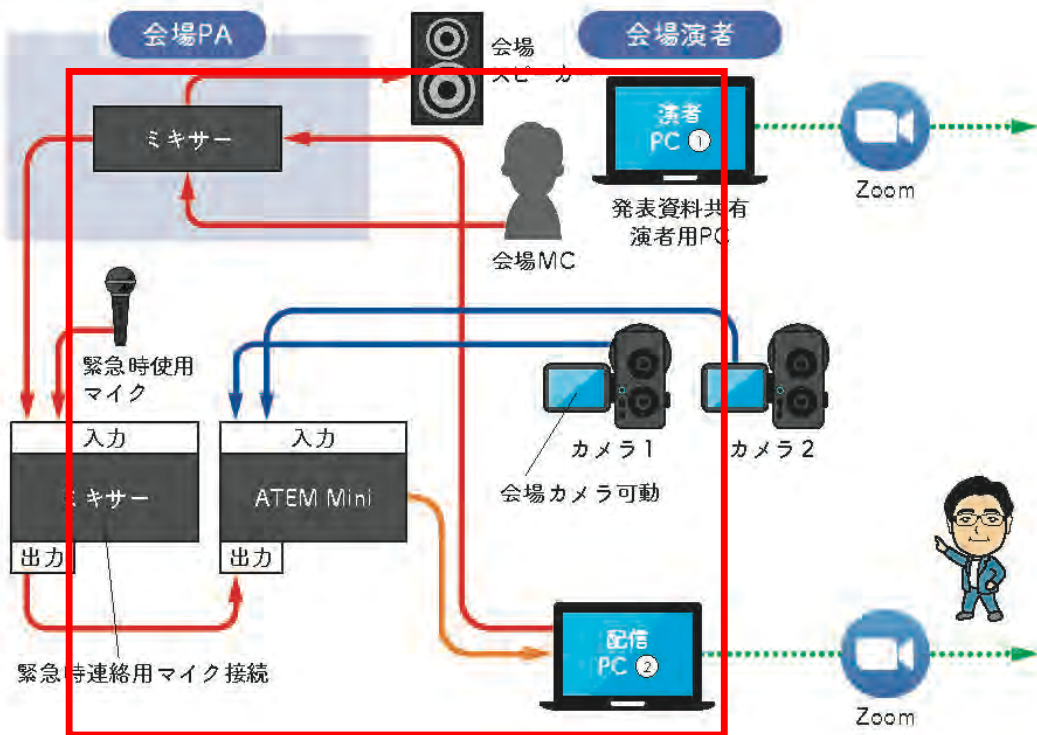
貸し会議室やホールをメイン会場としてオンライン参加者もいるというパターンです。オンライン参加者や会場のマイク音声をハウリングなどを起こさないように注意します。ここではハウリングが発生する3つの主要な貸し会議室やホールからウェビナーができる

POINT

- ① 会場のマイクとPA（スピーカー）は同じPCカードバックによるエコーの要因となる音のループ
- ② 会場でオンライン参加する人がスピーカーをオループが発生し、フィードバックによる音のエ注意する。
- ③ 会場PAとZoomマイクとの波長が一致する部分になるので、会場PAのイコライザーかZoomをつなぐかして波長ハウリングを解消する。

設置

貸会議室やホールからウェビナーの配信パターン



- ・ イベントホールなどの場合、会場PAから配信用音声を取得する。会場PAからの音声とZoom音声の調整をスムーズにするため、できれば手元にもミキサーを置く。
- ・ Zoomの音声（質疑）は配信用PCから会場PAに戻す。この際、ハウリング調整に注意する。
- ・ 演者PCは、できるだけ会場に集中してもらうため画面共有のみし、主催者、Q&A、映像・音声は、別で配信用PCを用意する。



**Thank you for your
kind attention**
